

HIC通信

Vol. 96

April 2017
Hiroshima
International
Center



目次

P2 特集 対談

広島東洋カープ通訳 西村公良

ひろしま国際センター研修部

日本語常勤講師 犬飼康弘

P5 交流部

留学生活躍支援センター

研修部 (ひろしま国際プラザ)

P8 草の根国際協力助成金交付事業 のご案内

P9 コラム

Hello Hiroshima

P10 JICAレポート

こちら JICA デスク

P11 イベント・講座案内

Upcoming Event News



広島東洋カープ通訳

西村 公良

対×談

ひろしま国際センター研修部 日本語常勤講師

犬飼 康弘



昨年度は、カープ通訳西村公良さんによる多文化共生講座が大好評！そして今年はHIC通信に登場です。
キャンプ入り前の西村さんにお話を伺いました。

犬飼 昨年ですが、優勝おめでとうございます。
西村 ありがとうございます。やっとですね、ほんと嬉しかったですね。
犬飼 すこし時間がたちましたが優勝に向けて、チームの雰囲気はどうでしたか？
西村 マジックがついて10あたりはもう“行け行けドンドン”ですね。あと、流行語大賞になった「神ってる」の試合の時はチームがかなり盛り上がって。雰囲気良かったですね。
犬飼 マジックもトントンと減りましたよね。
西村 あれは想定外でしたね。広島で胴上げしなかったんで、何度も試合を計算してましたけど、あまりに早く減りすぎちゃって。勢いづいたチームってこんなもんなんだな〜って。一戦一戦もう少しもう少しして感じでした。最後の2、3週間、選手はしんどかったと思いますね。

外国人選手がうまくはまらないとチームが強くならないなって思います

犬飼 そんな中でジョンソン選手が15勝、外国人投手として沢村賞52年ぶり。エルドレッド選手も2年契約で外国人選手の最長在籍ですね。外国人選手の存在感がかなりあったんじゃないですか？

西村 特にカーブは外国人選手がうまくはまらないとチームが強くならないなって思いますし、その中でジョンソンが2年連続2ケタ勝利の安定感のあるピッチングで、さらに沢村賞をとったっていうのは大きかったですね。エルドレッドはチームに溶け込んでいるので心配していませんね。彼は完全にこのチームの選手になっているんです。

犬飼 優勝パレードのときもエルドレッドのお嬢さんとバスの中で一緒にすごしたよね。

西村 ええ、2歳位の時から知ってますからね。

犬飼 日本語もできたりするんですか。

西村 僕とは照れちゃって日本語を話さないですけど、日本語理解してますね。ひらがなとかも練習しているし。

犬飼 そのお話を聞くと、選手の家族のケアをされているのかなって。

西村 そうですね、もちろん。僕らができる範囲で。現場の選手が最優先ですけど、うちの球団には国際業務課というのがあって、家族のケア

はしてもらいます。その中で、私ができるところはします。

犬飼 家族のサポートとは具体的にどのようなことをされていますか。

西村 国際業務課がメインですけど、家族のどれか一人が体調を崩した時に病院に連れていったり、買い物に困っているときは店員さんと話したり、ほんと、細かいことです。

犬飼 そのようなサポートだと24時間？

西村 電話は24時間オン状態です。国際業務課のスタッフは2人いて、男性と女性なんですけど、女性のスタッフは奥さんの方のサポート。選手は男社会ですけど、奥さんは女性ですもんね。去年いた髭で有名になったブライディーの末っ子は広島で産まれているんです。大体はアメリカに帰って出産するんですけど、彼はこっちで産ませたんですよ。その時は女性の社員スタッフが産婦人科でずっと付ききりでした。

犬飼 奥さんは日本語がしゃべれないから不安を抱えていると思いますけど、それでも日本で産むって決められるぐらいのサポートなんですね。

西村 僕たちもそんな風に決めてくれると嬉しいので、僕たちが出来るサポートって何ができるのかなって考えますね。

選手との信頼関係作るの大変じゃないですか？

犬飼 通訳として、新入団の選手との信頼関係作るの大変じゃないですか？

西村 そうですね、2月のキャンプからオープン戦までの2か月弱が勝負ですね。いかに僕たちを理解してもらうか。同じ宿舎で朝から晩まで一緒にいるんで、話す機会も多いんですよ。普通の会話の中でどういうふう僕という人間を理解してもらうかですね。

犬飼 野球だけでなくパーソナリティーを伝える感じですか

西村 そうですね。だからと言って、面と向かって「俺の性格こんなだ！」って言うわけにいかないじゃないですか（笑）。食事時の会話とか、ちょっとずつ。相談ごとに助言したり、教えてあげたり。その中で、どれだけ「こいつのこと聞いてれば信頼できるんじゃないか」という関係を2か月で作るかですよ。

犬飼 信頼関係できたという瞬間ってあるんですか？

西村 どうしても腹を割って言わないといけないことがあるんですよ。「こんなことできない」とか。でもやらなきゃいけない理由を伝えないといいじゃないですか。そういうことしているうちに、選手のほうから Help me out. って「どうしたらいい？」と相談が来たりして。

犬飼 日本語教師の話ですけど、外国人研修生に宿題出さないですか、そのときに「なんでこんなことしなきゃいけないんだ」って聞かれるんですよ。これに答えられないと、その宿題ってやっても意味がないって言うようなものですよ。やるには理由がほしいじゃないですか、これは自分のためになる、みたいな。そういうのと似てますよね。

コミュニケーションを重要視してます。
外国人選手の性格を理解する、
そして僕たちを理解してもらう

西村 結局は、真剣に言わなくてはいけないときはちゃんと、それを繰り返して、信頼関係を築くという感じですね。なので、キャンプ期間中は選手とのコミュニケーションを一番重要視しています。外国人選手の性格を理解する、そして僕たちを理解してもらう。

犬飼 お互いの理解の上に信頼関係が成り立ってことですよ。広島県には4万人くらい外国人がいますが、支援するためにも、そこは誰かとの信頼関係が必要になってきますよね。



西村 そうですね。広島に住んでる外国人がいて、コミュニティがあって、その中に誰か一人でもこの人に聞いたら答えが返ってくるっていう人がいれば、心のよりどころになりますよね。そうすれば暮らしやすいと思いますね。カーブの選手は僕たちがいますけどね。

犬飼 たとえば外国人選手にも色々な選手がいますが、困ってそうな時に、何でもかんでもしてしまうのは支援じゃないような気がするんですよ。失敗から学ぶことがありますよね。全部お膳立てして、はい、どうぞ！ってすると一見親切のようでいて、実は不親切なんじゃないかなと考えるたりして、支援って難しいと思うんです。

西村 僕らも最初は色々手助けをするんですけど、ただ彼らに言うのは、徐々に慣れてきて、同じことを何回もやってくれて言われたときに、「自分でもできるから、簡単だから、やり方教えておくれ、次からやってみて」って言いますね。キャンプから広島に帰ってきたら、選手は自分のアパートから球場までのタクシーを呼ばなくちゃいけない。初めは不安でできないです。でも、何回か助けると自分でできるようになります。

犬飼 どのへんで手助けをやめますか？

西村 ま、生活に慣れてきたぐらいの時ですかね。オープン戦期間を過ごして、日本の生活にも慣れてきたころですね。

犬飼 それって生活の自立ですよ。安直に結び付けられないかもしれないですけど、それって試合に影響はあるんですか。

西村 結局、彼らは外国人選手として日本のプロ野球で野球をやるんで、日本の社会や文化、食生活になじめない選手は、なかなかいいパフォーマンスをグラウンドで出すのは難しい。仕事場である現場の日本人選手、日本人スタッフとど



のくらい早く打ち解けられるか、球場外で一人で買い物に行けるとか字を覚えるとか、一人で食事に出かけられるとか。食事をして自分の好きなものばかり食べてたら食べる物なくなっちゃう。広島は小さい町なので、選択肢が限られてますよね。そしたら日本食とか新しいものに挑戦していく選手のほうが、成績が伸びていきますよね。生活に不安がないから、落ち着いて仕事に集中できる。

犬飼 生活で嫌なことばかりだったら仕事に集中できないですよね。その土地になじんで、信頼できる仲間がいて、それってとても当たり前ですけど大事なことですよね。

TIJって？

犬飼 そういえばジョンソン選手が練習中などに“TIJ”って言う事があるって話を聞いた事があるんですが。歴代の選手から引き継がれたものとか。

西村 あ、そうですね。それは当時バリントン、サファテ、エルドレッド、ミコライオがいた時ですね。その世代、外国人選手がすごく仲良くて、バリントンとサファテが同時だったんですけど、彼らはどんどん新しいことにチャレンジしてましたね。来日一年目は、日本式の練習って彼らは初めてなんですけど、「特別扱いしないでくれ、あなたたちがすることは全てやろうと思うから」って公言して。それまでそんなこと言う外国人選手は皆無でしたね。その時から、一気にスタッフや選手から信頼関係ができあがったんですよ。とてもいい雰囲気でした。それでも、「これはおかしいだろ」という相談を受けたことがあったんです。「言ってる意味は分かるけど理解できない」っていう時に、彼らが「もう言ってもしょうがない」そんな意味で“TIJ (This is Japan!) That's it!!”みたいな感じで使ったんです。それ以来、理解を超えるときに「TIJ, TIJ」って言っていましたね。あとTICっていうのもあるんですよ。

犬飼 TIC？

西村 This is Carpここはカープ流だからってことで。

犬飼 選手にとって日本のやり方に合わせるのはストレスでしょうね。彼らの言い分を聞いて、チームとのクッションになることはありますか。

西村 あります。

犬飼 そういうバランス感覚っていうものは。

西村 そうですね。もちろん独断できないことはチームのフロントスタッフ等に聞きますけど、僕の判断でやれるところは僕の判断でやります。球団側が私を信頼して仕事をやらせてくれ

ているので、あまりにも縛りつけると、選手も息苦しくもなってきますし。

犬飼 自分もその判断に責任を取るじゃないですか。それで、その選手が活躍した時ってめちゃめちゃ嬉しくないですか。

西村 はい。嬉しいですよ。球団側が選手に伝えたいことがある、でもたまに「それはちょっと」ということもあって、そんな時は「伝えますが反感を買いますよ」と言います。どっちの言い分も分かるので、アメリカ人だったらこう考えるし、こういう質問をしたらこういう答えが返ってくるっていうのが分かってますから。例えばある選手がある方と1対1で私を介して話をしている時に、それぞれの言い分を聞いて通訳するときは、「お前それ言うか!？」っていうような事を選手が言うことがあります。

犬飼 そんなときどうします？

西村 彼が面と向かって言えない事を、言葉が通じないと思って、私に甘えて言ってるなと判断したら、じゃあ言うぞって。ホンマにいいんやなって(笑)。そうしたら、「うん、ちょっと待ってくれ」って(笑)。そういうのはしょっちゅうあります。そんなことばかりです。

しゃべってあげることでよね、
自分が納得いかないことだったり、
こっちの気持ちも

犬飼 場面は違いますけど、例えば外国人の支援をしている市役所の人とか、ちょっとこれ言っというて、言いにくいことを言わなきゃいけない仕事の人もいますよね。そういう人にアドバイスするとしたら何かありますか。

西村 嫌なことを伝えなきゃいけないことが多々あるんですよ。ただ、仕事として伝えなきゃいけないのでやりますよ。選手も「あなたが言うんだったら、納得はしないけど従います」っていう答えが、例えば返って来たら、その後は、いかにその愚痴を聞いてあげられるかってことですよね。愚痴を聞いてあげて、まあしょうがないじゃないかって、あなたはこのチームで働いてるんだして。納得する、しないは別として、ある程度のレベルまでは説明してあげようかなっていう。やっぱりしゃべってあげることでよね、自分が納得いかないことだったり、こっちの気持ちも。

犬飼 私も外国の方を支援したり、ボランティアの方とお話をするときに、大事ななお互いの信頼関係に基づいた対話っていうんです。初対

面の人には本音はなかなか話さないじゃないですか。そんな時に信頼関係に基づいた対話っていうのが大事なんだって話すんですよ。

西村 信頼関係って、僕は会話に裏を出さないっていうか、自分の思っていることを正直に話しています。難しいですが、相手が「本当にこの人はどう思っているのか」と思ってしまうと信頼醸成ができません。単刀直入に、俺はこう思っているよ、いやいや俺はこう思うよって。難しいですが、真面目な話だけを話してもつまらないので、いろいろなことを盛り込みながら、いかに自分っていうものを理解してもらおうかっていうことです。

犬飼 西村さんも選手の方を信頼しているからできることですね。

西村 やっぱり来てくれている選手を、いかに一軍で活躍できるようにするかということが基本。彼らが心地よくプレーできるようにと考えて仕事しています。もちろん人間なんで、苦手な相手もいますけどね。でも嫌なところばかりじゃないんで、良いところを見て、おまえこういう良いところもあるんだからって。そういうことは言いませんけど(笑)。嫌なところは目をつむって、また出てきたぐらいで。そこは消すようにはします。

犬飼 人間ですから相性はありますよね。

西村 あります。あります。ただ、合う合わないとか言っちゃうと僕らは仕事にならないんで、良いところ見るようにしています。

犬飼 プロとしてのお仕事のあり様ということですよね。例えば外国の方に日本語を支援する日本語教室などで、お互いが嫌な気持ちにならないから、衝突を避けちゃうっていうのはどうしてもあると思うんですよね。そうすると裏が出来ちゃう。逆に信頼関係を妨げちゃうっていう側面もあるのかもしれないですね。本当は、信頼関係に基づいた対話を繰り返していく中で、結果、衝突が起きるかもしれないけど、それを乗り越えるからこそその一段上のベストな関係がつけられる。

西村 何回か言い合った選手でも、結局は帰るときにありがとうって言って帰ってくれたら、まあそれで良かったなあとか。

犬飼 これって外国人と日本人だけでなく、例えば上司と部下とか親子関係とか先輩後輩とかの関係に似ている気がしますね。来シーズンも連覇期待しています。体に気をつけて頑張ってください。

西村 はい。頑張らせませす(笑)



交流部

Report 1 「雪生活体験」を開催しました

1月29日(日)、今年で15回目となる「雪生活体験」を、美和東文化センター(山県郡北広島町溝口)にて、美和東ふるさと振興協議会と共催で開催し、広島県内在住の外国人39名(11ヵ国)に参加していただきました。

前日までに降り積もった雪は約90cmもあり、一面の雪に覆われた銀世界に最初は驚いた様子でしたが、雪だるま作りや雪滑り、雪合戦を楽しみ笑いが絶えませんでした。地元の方の案内で町の散策もしました。雪遊びの後は、女性会美和東支部の皆さんが作られた地元料理と、外国人参加者による多国籍料理を囲んで交流会を行いました。ステージ発表では、地元芸能の日本舞踊、銭太鼓、神楽を鑑賞しました。参加者からは広島大学大学院の李博さんに中国伝統話芸「快板」を披露して頂き、軽快なリズムにのせた軽妙な語り口は、地元の皆さんの笑いを誘っていました。

最後に、参加者を代表してグエンハーアインさん(ベトナム)が述べた挨拶を紹介します。「私は雪に触り雪だるまを作ることが子どもの頃からの夢でした。今日はその夢を叶えることができました。それ以上に地元料理や日本の伝統芸能に触れ、一生忘れることのない一日になりました。」



「快板」を披露する李博さん

Report 2 「平成28年度相談員等ネットワーク構築研修会」を開催しました

1月13日(金)、14日(土)に市町・国際交流協会の相談員・通翻訳者及び担当職員対象に、相談員等ネットワーク構築研修会を実施し、30名の職員にご参加頂きました。本研修は「多文化共生時代の相談窓口のあり方と関係機関との連携」をテーマに、(公財)兵庫県国際交流協会 スペイン語通訳相談員の村松紀子氏(社会福祉士)、「在留資格に関する相談に必要な情報」をテーマに、(特活)ビザサポートセンター広島 理事長の益田浩司氏を講師としてお招きしました。研修では、多様化する相談において相談員に求められる役割、相談における知識や技術、関係機関との連携について学びました。長年のご経験に基づいた相談対応のお話は大変勉強となりました。



Report 3 「平成28年度多文化共生担当職員 第3回テーマ別研修会」を開催しました

1月20日(金)、27日(金)に広島・尾道と2会場で、多文化共生担当職員第3回テーマ別研修会を実施し、合計55名の関係職員が参加しました。本研修は「国際化社会における子どもの教育と多文化共生について」をテーマに、広島市立基町小学校の二宮孝司校長先生を講師としてお招きしました。基町小学校は外国にルーツをもつ児童が全校生徒の6割を占め、基町小学校の取組は全国から注目を浴びています。そこで、本研修では外国にルーツをもつ児童を含む全ての児童に対する相互理解・多文化共生教育、保護者や地域住民との多文化共生の取組事例を学びました。本研修は教育関係者にもご参加頂き、教育関係者からは基町小学校の取組が大変参考になったと感想を頂きました。



Report 4 「世界の仕事を知るセミナー～国際関係の仕事のやりがいって?～」を開催しました

平成28年度は国際舞台で活躍する人材育成支援の一助として、県内の学生や青年を対象に「世界の仕事を知るセミナー」を4回シリーズで実施しました。セミナーでは、国連職員(ユニタール)、外務省職員、NGOアドバイザー、青年海外協力隊OG、元客室乗務員、元ディズニーワールド勤務者のスピーカーから、国際関係の仕事の体験談ややりがい、仕事に就くための秘訣を語って頂き、総勢155名の方にご参加頂きました。参加者にとって、夢への第一歩になっていれば幸いです。ご後援頂きました広島県、広島県教育委員会、広島市様には、この場を借りて御礼を申し上げます。

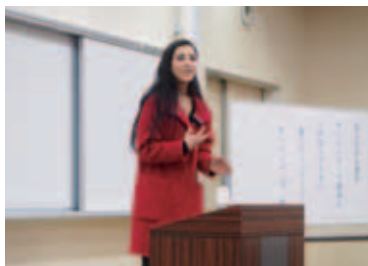


交流部



Report 5 多文化共生講座「サヘル・ローズ講演会 ～外国人が日本に暮らすということ～」を開催しました

1月28日(土)にタレントとして活躍中のサヘル・ローズ氏をお迎えして多文化共生講座を開催しました。この講座では、日本語学習支援ボランティア(ワンペア)も紹介し、新規登録を呼びかけました。当日は、多数のご応募をいただき、会場は満員御礼でした。講演会では、サヘルさんのご経験を踏まえて、外国人が日本で暮らすこと、どんな支援が支えとなり、どんな気持ちが大切か、など多くを語っていただきました。来日までのご幼少期、来日後の苦労など、ご自身の経験を流暢な日本語でお話しになり、ご参加者の皆さまも、真剣に聞き入っていらっしゃいました。講演後は、会場の方と直接の質疑応答で一つ一つの質問に丁寧にお応えになられていました。参加者様からのアンケート回答では、「心にしみた」「ありがとう」「相手の立場に立った思いやりをもちたい」「心を動かされた。自分が何の支援ができるか考えたい」「もっとたくさんの人に(サヘルさんの)話を聞いてもらいたい」などの感動の声が寄せられました。



留学生活躍支援センター



Report 6 企業・留学生交流サロン(東広島会場)を開催しました

1月26日(木)に東広島芸術文化ホールくららにおいて、今年度2回目の「企業・留学生交流サロン」を東広島市の協力事業として開催しました。当日は東広島市の企業6社と留学生18名(出身国:中国・タイ・韓国・台湾・ネパール)、地元企業・大学等のオブザーバー4名が参加し、小グループに分かれて交流を深めました。大学の専攻や学校生活に関する質問や、留学生から企業担当者へは「採用活動の際に集団面接でどのような点を見ているのか?」など就職活動に関する質問が出るなど、グループごとに談笑を交えながらコミュニケーションが弾んだ有意義な会となりました。



留学生活躍支援センター



Report 7 外国人留学生対象「企業見学ツアー」を開催しました

2月22日(水)に今年度第2回目の「企業見学ツアー」を開催しました。今回の訪問企業は、「株式会社八天堂」様と「シグマ株式会社」様。広島県内の大学および日本語学校の留学生、30名が参加しました。

午前中は株式会社八天堂の広島みはら臨空工場を見学しました。手作りにこだわりながらも見事なチームワークで、1日3万個もの「くりーむパン」が作られます。特にクリーム作りは時間との勝負で、その手際の良さに留学生のみんなもびっくり!

午後は、シグマ株式会社を訪問し、部品の製造工場を見学させていただきました。無駄を出さない製造工程、精度を高めるための技術を目の当たりにしました。また、色々な国籍の方を採用されており、留学生からも多くの質問が出ました。

広島県にはこんなに魅力的な企業があることを、今後もこのイベントをとって留学生のみなさんに伝えたいと思います。

最後になりましたが、ご協力いただきました企業の皆さま、ありがとうございました。



Report 8 文科学委託事業「ジョブフェアオンキャンパス」を開催しました

1月20日、福山大学（宮地茂記念館）において今年度2回目の「留学生と企業のためのジョブフェアオンキャンパス」を開催しました。日本独特の文化の一つとも言える就職活動。日本企業への就職を目指す留学生が、本イベントを通じて就職活動への理解を深めることを目的とし、実施しました。第1部では「日本企業の働き方改革と海外人材戦力化の課題—アジアでのキャリア形成を展望する—」をテーマに関西学院大学 井口教授による基調講演と、(一社)留学生支援ネットワークの久保田氏より留学生への就活支援セミナーを開催、企業・留学生など約100名が参加。また、第2部では、約50名の留学生が、日本企業を知るための①業界・企業研究会（22社出展）と②留学生交流サロン（企業と留学生の交流会・元留学生との交流会）に参加。①では、それぞれが希望する企業ブースで担当者のお話に熱心に耳を傾けじっくりとお話を伺っていました。また、②では、企業の担当者や元留学生の先輩とフランクに膝を突き合わせた交流が行われ、日本企業や働き方について、生の情報にたくさん触れた一日となりました。



Report 9 2016年度ひろしま留学大使の修了式を行いました！

2月23日（木）、2016年度のひろしま留学大使の修了式と、最後のミーティングを行いました。

1年間、広島での留学生活や、魅力についてSNSで情報発信をしてくれた留学生に感謝の気持ちを込めて、修了証を授与し、1年間の活動の振り返りや、今後の活動に向けての改善点を話し合いました。

その後は、2017年度の新メンバーを募集するためのムービーを作りました。どんな構成にするか、どんなメッセージを発信するか、みんなで意見を出しながら、楽しく撮影会が行われました。

今後は、みなさんそれぞれ別の道に進んでいきますが、広島での思い出を忘れずがんばってくださいね。みなさんがこれからますます日本で、世界で、活躍していくことを楽しみにしています！

ひろしま留学大使は、今年度からも新メンバーを募集し活動していきます！これからもよろしくお願いします！



ひろしま留学大使

Facebook

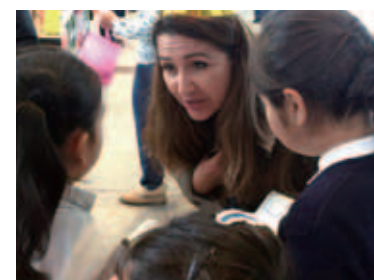
Website



Report 10 「世界まるごと体験デー」を開催しました

2月11日（土）「世界まるごと体験デー」が、東広島市鏡山にある、ひろしま国際プラザで開催されました。「遊び」を通して世界の文化や習慣を知ることとしたこのイベントも、今回で第10回目。

「世界の遊び」、「手作り体験」、「世界旅行クイズ」等々、人気の活動がズラリと並びましたが、イチ押し体験は、なんと言っても突撃インタビュー。国名入りのタスキをかけた人に、その国の「びっくりエピソード」を聞きます。コスタリカ、ウガンダ、モロッコ、マラウイ、ベリーズ、モンゴル、ソロモン諸島、ロシア、スロベニア、ポーランド、オーストラリア、ニュージーランド、中国、ベトナムの14カ国で生活したことのある青年海外協力隊のOB、OG等15名が、華やかな民族衣装を着て参加しました。「スロベニアでは1時間のお散歩が普通、休日は2～3時間もお散歩するよ。」と小さな子どもには分かりやすく身近な「びっくりエピソード」を、大人には「人口は広島県より少ないのにサッカー・ワールドカップにも出場したんですよ。」と大人向けのエピソードを紹介。分かりやすいようにと写真や小物を持参した方もいて、「聞いたこともないような国の面白い話が聞けてすごかったです！」と大人にも子どもにも大変好評でした。この日600名を越す地域の人々がイベントに参加、お手伝いくださったボランティアさんは60名以上、お互い楽しい一日を過ごしました。



ブラジルからの研修員ロシーさんにインタビュー

草の根国際協力



助成金交付事業のご案内

民間レベルの自発的な国際協力活動を推進するため、ひろしま国際センター研修部では、民間の非営利団体が実施する国際協力活動に対して、事業費の一部を助成します。

応募締切は、平成29年5月1日(月)(必着)です。

対象となる事業

1 国際協力の担い手を育成する事業(第1号事業)

民間レベルで国際協力活動を行う団体で活動する人材を育成する目的で、広島県内で実施される事業(例:講演会、セミナー、体験活動など)

2 開発途上の国や地域での国際協力事業(第2号事業)

福祉・保健・医療、環境保全、教育文化、産業技術等の分野で、開発途上の国や地域で行われる事業

対象事業	助成額	助成限度額	助成回数
国際協力の担い手を育成する事業	対象経費の50%以内	1,000千円	1会計年度1回限り(※)
開発途上の国や地域での国際協力事業	対象経費の50%以内	2,000千円	

※同一団体による同一事業は、3回を限度とします。(平成29年度に助成を受ける事業から新たに適用)

※平成28年度は、7つの団体に対して、合計4,503,611円の助成を行いました。

助成採択 団体の声

ミャンマーにおける小学校水供給事業

特定非営利活動法人 ESA 理事長 松本峯春

NPO法人ESAは、平成19年の設立以来、主にミャンマーにおいて環境に配慮した基盤整備(給排水・学校改修等)と現地の建設技術指導を行ってきております。

「1事業年度1施設建設」を目標に、常に地域住民の要望調査を行い、地域の実情、事業の実施効果、予算規模、財源等を見ながら地域住民への施設計画の提示、計画の事業実施、毎年1施設の引渡しと実績を積み10年が経過しました。

この間、この国は軍事政権から2015年の総選挙の結果、アウンサンスーチー氏が率いるNLDが大勝利歴史的な政権交代が行われました。この2、3年の社会、経済の変化は目を見張らせるものがあり、政治とは無関係に地道に活動してきた我々にとってもとても興味深いものです。

平成28年度はミャンマー・ヤンゴン・タンリン地区にあるBon Pyan小学校に不足がちな水供給の施設整備を行いました。



水供給施設(井戸、貯水タンク、ポンプ)



Bon Pyan 小学校の児童たち

この小学校では、18人の先生と14クラス、788人の児童が学んでいますが、近隣の地域住民と水を分け合っており、水が不足しております。

また、管井戸、地下ポンプが古く故障しがちで水の問題に悩んでおります。

これを解消するため、近隣住民とは別の水供給システムを建設する事業を実施したものです。

この事業は平成27年5月ごろから、地域住民の要望の聞き取りを行い、その後、設計、事業計画、予算規模を決定しました。平成28年5月に公益財団法人ひろしま国際センターの草の根国際協力助成金の交付が決定したので事業に着手し、平成29年3月に現地で竣工引渡式を行いました。

Hello Hiroshima

Vol.96 April 2017



Language and identity

Daniel Mackey

I recently had the opportunity to visit a school in Mihara City, Hiroshima. This was actually my first time visiting a school since arriving here, and I was given the task of introducing my country, Canada, to students in several classes. While the presentation itself was in Japanese, I also helped them practice a little bit of English and even spoke several words of French since my hometown of Montreal is technically the second largest French-speaking city in the world after Paris.

This school visit prompted me to think about my own childhood, and how I had to struggle with learning a second language when I was young. Or perhaps I should say how to re-learn my mother tongue? My case might be somewhat special.

Essentially, I was born in Quebec City, the heart of French Canada, which is almost exclusively French-speaking. I lived there until the age of three, and I imagine that I picked up quite a few words by then, but I honestly can't remember one way or the other.

When I was three, my father got transferred to an office in London, England, so my whole family moved over there to be with him. In other words, as I was on the verge of forming a French Canadian identity, I suddenly found myself in the most English of all places. Any trace of French vanished nearly overnight and was replaced by an English with a South East London accent. I even have an old tape to

prove it!

Anyways, I lived and went to school in England until I was around nine, at which time we followed my father back to Montreal, Canada. This is where things got tricky, since I was put in a French immersion school and basically had to learn French from scratch, even though it was technically the first language I had ever spoken. But at the time I felt nothing but resentment towards being forced to learn it after having become completely anglicized. Being a little sponge, I did manage to learn regardless but that was almost in spite of myself. In my mind, it always felt like a burden even though I was living in a predominantly French city.

Perhaps that is why I can just imagine how hard it must be for some Japanese students who are forced to learn English despite having no contact with it outside of their classroom. I can relate to that feeling, and I believe that it allows me to approach such students with a greater sense of understanding. Moreover, I am also struggling to re-learn Japanese these days after a very long hiatus of not speaking the language at all. But mastering *keigo* (honorifics) is a real uphill battle for me. At least I am now old and wise enough (kappa) to understand the value of knowing other languages, and I hope that, in my own way, I can impart this sentiment to the next generation.



活動内容 在住外国人の方の日本語学習を一对一（ワンペア）で、お手伝いします。
活動場所 ひろしま国際センター 交流部（広島市中区中町8-18）
対象者 外国人の方の日本語学習を手伝ってみたい方、国際交流に興味のある方、ボランティアに興味のある方。年齢18歳以上。資格・経験は問いません。（申込み時に語学力等ご相談いただけます）

HICワンペア 日本語学習ボランティア

外国人学習者さん増えてます！

**ボランティアさん
大募集中。**

詳しくはウェブサイトへ

HIC ワンペア 検索



参加方法 来館、ホームページ、郵送または FAX でお申し込みください。郵送、FAXの場合、ホームページから登録用紙をダウンロードいただけます。
登録後の流れ 登録後は当センターにてご希望条件（※）に合った方とマッチングいたします。
※希望条件は、学習曜日や時間帯、学習頻度、学習レベル等です。

【お問合わせ】公益財団法人ひろしま国際センター 交流部

tel:082-541-3777

広島から世界へ！

僕たちにできることは必ずある！

広島から世界へ！3月下旬より、広島県出身のJICAボランティア1名が
ガーナへ向けて出発します！



■現在赴任中の広島県出身 JICAボランティア(名)

区 分	男性	女性	合計
青年	17	25	42
シニア	4	0	4
日系青年	0	1	1
日系シニア	1	0	1

平成29年3月1日時点

JICAボランティア <青年海外協力隊とは?>

「自分の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々のために活かしたい!」という強い意欲を持つ20歳~39歳の日本国籍を持つ方が対象のボランティアです。

派遣は原則2年間。衣食住を現地の人とともにしながら、互いに理解を深め、途上国の発展を支援する。そんな現場レベルのボランティアに、あなたも参加してみませんか!?

40歳~69歳の方を対象とした「シニア海外ボランティア」もあります。



帰国隊員レポート

~タイ篇~

丸本 裕子さん



タイ王国

東南アジアに位置する国家。

【概要】 面積：513,120平方キロメートル

人口：6,718万人

首都：バンコク

公用語：タイ語

宗教：仏教等

現地での活動内容

首都バンコクから車で3時間ほど東北にある県の健康促進センターで、作業療法士として活動しました。今後の高齢化社会にむけ、介護者の養成や家族への介護指導などを同僚と共に行いました。しかし、配属先での介護指導や患者さんへのリハビリ機会の少なさから、同県の2ヶ所の病院へも出張し、高齢者や片麻痺の方へ作業療法を実施したり、作業療法を紹介したりしました。また他リハビリ隊員と共に、自宅で生活する方向けに病氣と自主訓練を紹介するパンフレットの製作をしました。

タイってこんなところ！

タイは訪れる場所によって、様々な表情を見せてくれる国です。バンコクの煌びやかな大都市、牛の歩く田舎町、タイの心を感じるお寺、歴史に浸れる遺跡、透き通った海、雲海を見ることができる山。その地で食べる食事、明るく人懐っこい人々もワクワクさせてくれます。水かけ祭りや灯籠流し、キャンドルフェスティバルなど、伝統を感じるお祭りもたくさんあります。年中暑いイメージのタイですが、冬もあるんですよ。年に5日くらいですけど。

タイの食事について！

タイ料理は種類豊富でとっても美味しい！わたしのお気に入りはおもち米と鶏の炭火焼き。タイ料理は辛いというイメージの方が多いでしょう。でも、辛くないと美味しくないんです。ちょっと控えめにしてもらったくらいが日本人にはちょうどいいと思います。私の活動していた東北地方では、タンパク源の補給のため、昔から虫を食べる習慣がありました。おやつにも食事にも、色々と並んでいました。他にも南国フルーツもたくさん！おすすめはドリアンです。



▲患者さんとリハビリ中



▲タイ料理



◀活動先のパーティーでタイ衣装



▲大好きな同僚たち

まずは海外ボランティアの体験談を聞いてみませんか？

2017年度春募集期間に合わせて、広島県でも下記の日程で「体験談&説明会」開催しています。

「参加無料」、「予約不要」、「入退場自由」で個別相談も受け付けています。

4月15日(土)は映画「おいしいコーヒーの真実」の無料上映会もあるので、是非お気軽にご参加ください。

- ・4月 5日(水) 合人社ウェンディひと・まちプラザ
- ・4月 12日(水) まなびの館ローズコム
- ・4月 15日(土) 広島クリスタルプラザ
- ・4月 19日(水) 広島大学 学生プラザ

募集
受付期間

3/31(金)

>>> 5/10(水)



●広島JICAデスクfacebookはこちら→

まるもと ゆうこ 丸本 裕子さん プロフィール

- ・呉市出身
- ・大阪の専門学校を卒業後、京都市、呉市の精神科病院で9年間作業療法士として勤務。2014年10月より、タイのナコーンラーチャシーマー県にて作業療法士として活動する。

参加のきっかけ

趣味で海外旅行をしているうちに、海外で働くことに興味を持つようになりました。専門学校の先生がJICAボランティアとして活動していたということを思い出し、私も作業療法士として日本での経験を海外で役立てたいと思いました。

参加して思うこと

自分がたくさんの方に支えられていた事を実感しました。拙いタイ語の自分を理解してくれる活動先の方々、悩んだ時に助けてくれたJICAの方々やボランティア仲間。日本で支えてくれた友人。活動で行き詰まり辛かったときにも、そんな周囲の方々の繋がりをもとに先がみえてきたことがたくさんありました。改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

Upcoming



Event News



ユニセフ・パネル展

アグネス大使が中米グアテマラを訪問し、栄養不良による発育障害を取材しました。

胎児期から2歳までの1000日の栄養改善の取り組みを紹介するパネルを展示します。

日 5月10日(水)～5月24日(水)

時 9:30～22:00

*5月10日は11時から、5月24日は15時まで

場 合人社ウェンディひと・まちプラザ 南棟1階展示コーナー

定 なし

費 無料

問 広島県ユニセフ協会

担当者: 高田 和美

TEL: 082-231-8855

unicef-hiroshima_06@theia.ocn.ne.jp

料理研究家 コウケンテツ氏 講演会

40周年記念事業として料理研究家コウケンテツ氏を講師にお迎えし「食を通して、人が世界がつながる」～日々を豊かに生きる幸せレシピ～と題して講演会を開催致します。

対象者は食育に興味のある一般市民。

申込方法は、要予約・整理券が必要になります。

ハガキ又はメールにてお申し込み下さい。

日 5月29日(月)

時 13:30～15:00

場 リーガロイヤルホテル広島 4F ロイヤルホール

定 600名

費 無料

問 国際ソロプチミスト広島 事務局

TEL・FAX: 082-224-3260 (月・水・金)

info@si-hiroshima.jp



世界を変えてきたのは、
いつの時代も、
たったひとりの
強い想いだ。

卓球 in ブータン

いつか世界を変える力になる。

青年海外協力隊

シニア海外ボランティア

4/5 水 シニア 18:30～20:30
青年 18:30～20:30

合人社ウェンディひと・まちプラザ
(広島市まちづくり市民交流プラザ) 広島市中区袋町6番36号

4/12 水 シニア・青年合同 18:30～20:30

まなびの館ローズコム
(福山市生涯学習プラザ) 福山市霞町1-10-1

4/15 土 シニア 11:00～12:30
映画上映 13:00～14:30
青年 15:00～17:30

広島クリスタルプラザ 6階 広島市中区中町8-18

4/19 水 青年 18:00～19:30

広島大学 学生プラザ1階 東広島市鏡山1-4-5

お問合せ・資料請求 独立行政法人 国際協力機構

03-5226-9813

jicavolunteer-boshu@jica.go.jp

詳しくは

JICAボランティア



「グローバルリレーションズ・プログラム (GRP)」参加者の声

Hiroshima International Plaza: My host family

Amitava Chatterjee (India)

Living in Japan was the first time for me staying away from my home and family. The anxiety of lonesome life was intensified since I did not know the Japanese language. On the other hand, I was excited to be a part of the rich Japanese culture, and experience the essence of Japan.

Being a part of the Global Relationship Program (GRP) of Hiroshima International Plaza (HIP), I was amazed to witnessing the warm behaviour and assistance from all staffs during any time of day. I started to believe, somehow unknowingly, that we all are the part of a same big family, where country, colour, language, culture holds no bar.

The multiple cultural events at HIP are

very interesting and informative. Such events enhance my understanding about the Japanese culture and, their way of life. Apart from the cultural aspect, HIP is equipped with all the modern facilities, which, in turn, made my life easier.

My love for HIP is ever increasing due to hosting some of the most wonderful friends of my life. The quality time spent with them while playing pool or in the gymnasium or while cooking together is truly unforgettable. I am always thankful to HIP as they carefully selected such people, and give me a chance to interact with them. This makes me feel that I am in my home with my new family members. Thank you, HIP. Cheers!



グローバルリレーションズ・プログラム (GRP) とは？

ひろしま国際プラザに入居して大学に通いながら、国際社会で活躍できる「実践力」を身につけることを目的とした、外国人留学生のためのプログラムです。2月末現在、8ヶ国19人の留学生が参加しています。そのほか、レジデントアシスタントの日本人学生2名が入居し、彼らを支援しています。

★入居使用料
1泊 770円 管理費 2,500円 / 月
月額 24,060円 ~ 26,370円 (水道光熱費込み)

HIC交流部からのお知らせ

Free Back Issues of Magazines 雑誌のバックナンバーを無料配布します

ひろしま国際センターでは、施設内で配架していた古い外国の雑誌や日本の雑誌を無料で配布します。ご希望の方は交流部のラウンジへお越し下さい。



期間 2017年6月中旬(日程はHP掲載予定です)

場所 ひろしま国際センター交流部

方法 期間の間、ラウンジに雑誌を並べます。ご希望の雑誌をお持ち帰りください。

※1人3冊まで(ひらがなタイムスは1人1冊まで)

※先着順(雑誌が無くなったら終了します)

1人3冊まで(主に2016年7月~2016年12月に発行された雑誌)
TIME / The Economist / Weekly Chosun / Koreana / スッカラ / 青年文摘 / 読者 / 東西南北 / 留学生 / 留学ジャーナル / 国際人流 / Kyodai / 自治体国際化フォーラム / 海外日系人 Hoppoken / UNICEF NEWS / India Today / ひらがなタイムス / 絵本 / その他

賛助会員を募集しています！

HICでは幅広く市民の皆さんに協会の事業についてご理解、ご支援いただくために賛助会員制度を設けています。賛助会員の皆さまには、協会機関誌など国際交流情報やイベントのご案内をお送りさせていただきます。この制度を通して言葉や習慣の違いを乗り越え、心を通い合わせることでできる豊かなまちづくりに一緒に参加しませんか？

皆さまからご支援いただく賛助会費(※)は国際交流事業、国際理解教育事業、多文化共生事業に使わせていただいております。

■入会資格 協会の趣旨に賛同していただける個人、法人・団体

■年会費 個人一口 2,000円(一口以上)

法人・団体一口 10,000円(一口以上)

※当協会に対する賛助会費については税法上の優遇措置があります。

交流部&留学生生活支援センター

〒730-0037

広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6F

TEL. (082) 541-3777 FAX. (082) 243-2001

E-mail / hic@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間

月~金 10:00~19:00 土 9:30~18:00

日・祝日および年末年始(12/28~1/4)はお休みです。



研修部 (ひろしま国際プラザ)

〒739-0046

東広島市鏡山三丁目3-1 ひろしま国際プラザ内

TEL. (082) 421-5900 FAX. (082) 421-5751

E-mail / hicc@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間

(情報センター・図書室・NGO交流室)

月~土 10:30~19:00※

日・祝日および年末年始はお休みです。

※情報センター・図書室は平日12:30~13:30閉館です。臨時に閉館する場合は、HPで随時お知らせします。

